Vol.04　メジャーペンタ＋m3rd のブロックを弾いてみる

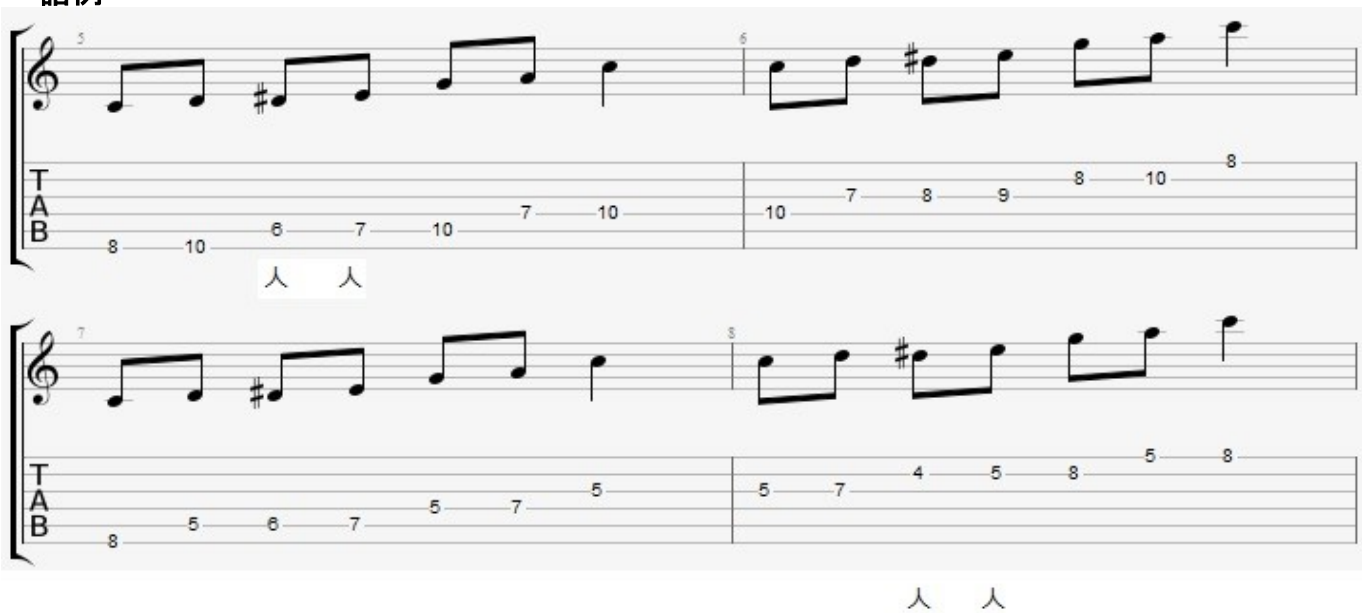
では、vol.04、はじめていきましょう。

今回は、前回学んだ、実質メジャーペンタであるブロックに、「m3rd」の音を足したものを覚えます。

スケールのトニックを C に設定するならば、トニック(C)→M2nd(D)→M3rd(E)となるので、m3rd の音は「E ♭」ですね。(※D♯と E ♭は異名同音)

この音をメジャーペンタに加える、と言う事です。

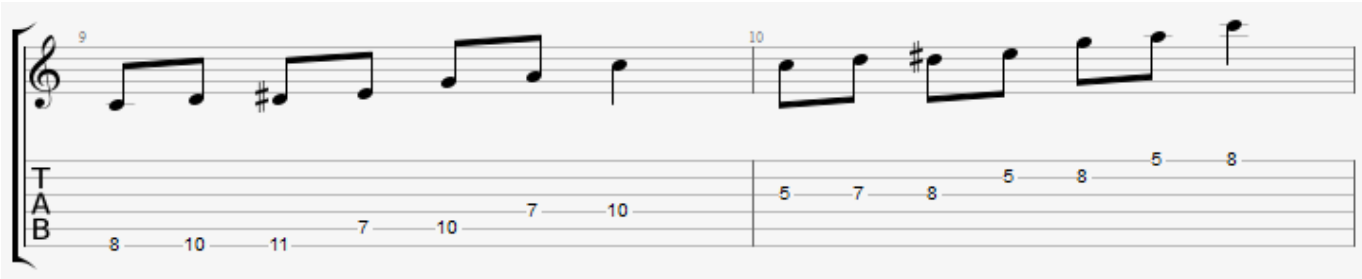
譜例



(※五線譜上では D♯音の表記になっていますが、今回は m3rd(E ♭)として見ています)

過去のテキストで学んだポジション(ブロック)から外れる部分には、指使いを載せています。

1 小節目と 4 小節目は以下の様な弾き方も考えられますね。



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

これはこれで良いのですが、今回の様な、大本がメジャー系のスケールの場合は、出来れば『m3rd→M3rd』の音の流れを作りたいので、最初に載せた譜例の弾き方のほうが、後々、フレーズが作りやすくなるでしょう。

この様な場合の m3rd 音は、大きく分けると、主にブルースなどで使われる「ブルー・ノート」的な見方と、「D→D♯(E♭)→E」や、単に「D♯(E♭)→E」の様な流れを作る「クロマチック・アプローチ」的な見方の 2 つに分かれると思います。

ブルースの方は、例えば C キーのブルースで、トニックコードである C7 の上で、「E♭→E」と弾いたり、E♭をクォーターチョーキングして E 音に寄せる、と言った使い方ですね。

クロマチック・アプローチの方は、目的である E 音に向かって、「D→D♯(E♭)→E」などと経過音的に使う方法です。

例えば C キーの楽曲で、CM7→Am7→Dm7→G7 の様な進行があって、CM7 の上でフレーズを弾くときに、E♭音をサラッと挟んだりすると、いい意味で煙たい感じが出せたりします。(※ですが、その感じが曲に合わない時はやめましょう)

m3rd は、本来、メジャー系のスケールやコードには含まれない音ですが、弾き方や、使いどころを上手く選んでやると、面白い効果が生まれます。

知識は、大元の基本的なルールとして学ぶことの他にも、惰性を乗り越えるためのツールとしても使っていきたいですね。

それではまた次回。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved